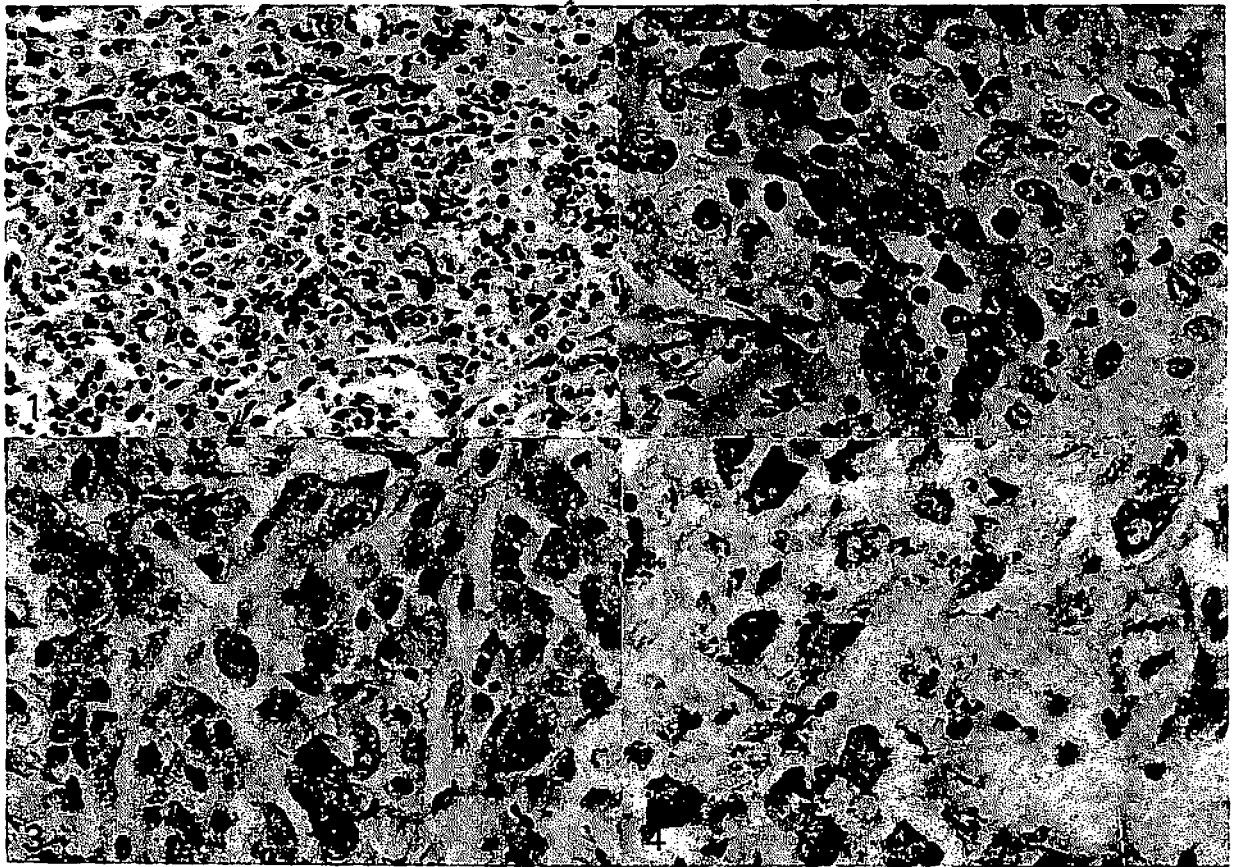


# ネコの上唇部腫瘍

日本大学農獣医学部家畜病理学教室出題 第17回獣医病理学研修会標本No.265



**臨床事項：**6才，雌，6年前に避妊手術，白血球16,000好酸球の増多（約20%）あり，ヘマトクリット値34%，BUN 32mg/dl，昭和51年6月中旬より上唇部に腫瘍が発生し，その他背部・腰部に湿疹あり（母親は同様の疾病により殺処分された）。昭和51年8月19日に上唇部腫瘍を切除，その他の部位の湿疹は外用薬により治癒。その後大腿部外側に丘状の肥厚があり。また，黄色脂肪腫の疑いもあり。12月中旬より副腎皮質ホルモンやビタミンEなどにより好転し食欲も出て元気になっている（臨床診断：好酸球性肉芽腫）。

**病理学的所見：**切除された上唇部腫瘍の大きさは1.5×1.0×0.5cmで，肉眼的には炎症性・線維性肥厚を呈し，表層部には壊死が認められる。組織学的所見は著明な壊死を伴った肉芽組織で好酸球が顕著に浸潤し，更に組織球様の細胞が著明に増殖し好酸球と共に認められる。これら浸潤細胞は結合線維間に特に小血管を中心に浸潤・増殖をしている傾向があり，あるいは結合織性毛包の周囲及び汗腺や皮脂腺などの間質にも増殖している。これら組織球様の細胞中には肥満細胞が多数出現し，散在性にあるいは密に集簇している。好酸球の多数浸潤している部分では肥満細胞は減少している。肥満細胞の形態は大型の原形質に富んだ楕円形～紡錘形を呈している。HE染色では微細顆粒が塩基性に，またこの顆粒はトル

イジンブルーで異調染色を呈し，PAS陽性，アクリフラビンで黄褐色に，アルシアンブルーで青に染色される。また核の分裂像も少数認められる。その他部位により好中球も比較的多数認められる。

猫の好酸球性肉芽腫は上唇その他皮膚に肉芽腫を形成し，流血中に好酸球の増多があり，また時には上顎骨溶解性変化を伴い，組織学的に好酸球の著明な浸潤と組織球の増殖を呈する疾病をいう。本例はこれに加えて組織性の肥満細胞の著明な増殖を確認した。文献的には肥満細胞に関しての記載を認めることができなかった。そして肥満細胞の著明な出現は一般的に慢性経過をとった炎症巣に認められている。したがって好酸球性肉芽腫も症例によっては炎症経過のある時期には出現してもよいと考えられる。

**病理学的診断：**文献的には好酸球と組織球の著明な浸潤を認め，臨床所見を合わせて好酸球性肉芽腫としている。しかし本例は特に肥満細胞の著明な増殖を認めたのでそれを冠して「肥満細胞の増殖を伴った所謂好酸球性肉芽腫」とした。しかし肥満細胞症という術語を冠してもよいと考える。

（写真 1：HE染色，×200， 2：HE染色，×400， 3：PAS染色，×400， 4：アクリフラビン染色，×400）